



第4号 2008年 天高馬肥秋号

●Nakanoshima Clinic 中之島クリニック

通信



編集 中之島クリニック 編集部まもなひ

〒553-0003 大阪市福島区二丁目1番2号

TEL:06-6451-6100

FAX:06-6451-1234

URL:<http://nakanoshima-clinic.jp>

中之島クリニック 看護師 主任 青地香織

中之島クリニック看護部主任の青地香織です。

これまでに御来院いただいたお客様、これからお会いできるお客様に私の自己紹介を少しさせていただきます。

私は看護師免許を取得する以前は百貨店の紳士服でファッションアドバイザーをしていました。丸5年接客業に取り組み様々なお客様と接することができ、お客様からたくさんのお話を教えていただきました。その中で一番大切だと感じたのは「お客様の気持ちに寄り添う心を持つこと」です。お一人お一人のニーズを満たすため自分に何ができるのかを常に考え、そしてそこに温かな感情を込めた笑顔でお客様をお迎えし、心から「いらっしゃいませ」とお出迎えすることからその方との今日という1日が始まります。

当クリニックでは、すべてのお客様が中之島クリニックで滞在されている間は心からくつろいでいただけるようホスピタリティの精神をモットーに接遇に取り組んでおります。当クリニックが初めてのお客様、昨年も御受診していただいたお客様、人間ドック自体初めてのお客様、と様々なお客様が御来院されます。ドックや外来の検査中に各スタッフがお客様と接する時間は短いですが、お客様のお気持ちに少しでも寄り添い「おつかれさまでした」と検査終了までお見送りできるようスタッフ一同日々努力しております。

開院2年目を迎え当クリニックの接遇についてはたくさんのお客様より御褒めの言葉を頂戴いたしておりますが、さらに快適にお過ごしいただけるように10月より3階健診フロアにてコンシェルジュスタッフを配置いたしました。健診についてのご質問や、オプションの説明、ご意見などを頂戴する「窓口」としてお客様と中之島クリニックとの架け橋になればとの思いです。

今後とも中之島クリニックをよろしく願いいたします。

スタッフ一同皆様のお越しを心よりお待ちしております。





「ガドリニウム含有造影剤(MRI用造影剤)と腎性全身性線維症について」

診療放射線技師 主任 中山一基

NSF (Nephrogenic Systemic Fibrosis) とは 1997 年に初めて発見された比較的新しく、また稀な疾患であります。2006 年に入ってガドリニウム造影剤投与を契機として NSF が発症したと思われる症例が報告され、両者の関連性が疑われるに至ったという歴史があります。

NSF とはなにか？

NSF ではまず、皮膚の変色、肥厚、硬化が認められ、この皮膚症状は四肢遠位側(肘より先、膝より下)に初発することが多く、その後四肢の中枢側、躯幹部へ波及します。ただし皮膚症状が頭頸部、顔面、背部に波及することは殆どないとされています。

患者の愁訴としては痛み、掻痒があり、また、皮膚の肥厚/硬化により関節の拘縮に陥り、関節の可動範囲が狭まる為に、下肢の場合歩行困難となり車椅子での生活になる場合もあります。

症状(線維化)は、皮膚以外の臓器(肺、肝、筋、骨、横隔膜、腎、心臓等)にも波及することが近年明らかとなり、このことから、死亡に至る例も報告されています。

なお、本疾患は当初「NFD (Nephrogenic Fibrosing Dermopathy (腎性線維化性皮膚症))」と呼ばれていましたが、症状が全身に及ぶことから、「NSF (Nephrogenic Systemic Fibrosis : 腎性全身性線維症)」と呼ぶことが提唱され、一般的になりつつあります。

これまでのところ、病因として種々のものが報告されてきましたが、明確な病因は明らかとなっていない。最終的な診断は皮膚の外観・触診のみでは不可能であり、深部皮膚生検が必要とされています。また、種々の治療法が試みられていますが、確立した有効な治療法は現在のところはありません。ただし、腎機能の回復(腎移植や自然治癒等)により、症状が緩解あるいは進行が停止する場合があります。腎機能が何らかの形で関与しているものと考えられてはいます。

NSF の典型的な皮膚症状を示す写真を下記を示しました。皮膚が硬化し、「樹皮」のようになっているのがお分かりになるとと思います。



The International Center for Nephrogenic Fibrosing Dermopathy Research : [http://www.icnfd.org/Broome DR et al. : AJR 188:586-592\(2007\)](http://www.icnfd.org/Broome DR et al. : AJR 188:586-592(2007)

これらのことから学会、研究会からの報告も受けて、基本的に当院においても**重症腎障害患者さま**(GFR< 30 mL/min/1.73m²)にはガドリニウム含有造影剤(MRI用造影剤)を投与しない方針で検査をお受けすることになりました。

今後ともよろしく願いいたします。

GFR (mL/min)=(尿中クレアチニン濃度(mg/dL) × 1 分間尿量(mL/min) × 1.48)/(血清中クレアチニン濃度(mg/dL) × 体表面積(m²)) 正常: 70-130 mL/min

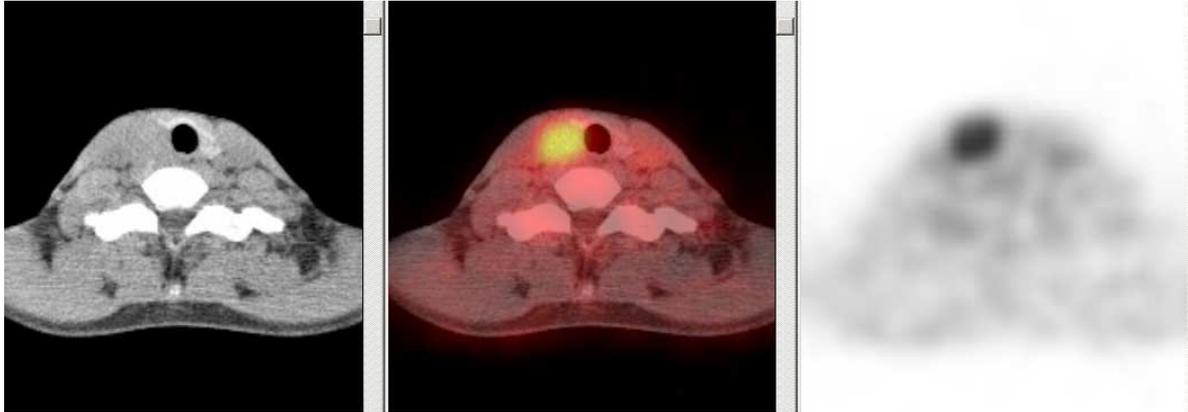
* 日本人の平均体表面積: 1.48 m²





「30歳代 女性、PET-CT を施行された甲状腺腫瘍の 1 例」

中之島クリニック 放射線科部長 岩田政弘



C T

FUSION(PET + C T)

PET

他院耳鼻科より、甲状腺細胞診 class b にて濾胞癌の疑いもあり、良悪の鑑別診断および転移巣検索目的にて PET-CT 検査が依頼された。甲状腺右葉の 2.5cm 大の腫瘍性病変に一致した淡い巣状集積(SUVmax=2.4、遅延像=2.7)が認められる。

甲状腺腫瘍良悪の鑑別診断に対する FDG-PET 検査の有用性に関しては、意見の分かれる報告が散見されるが、やはり、限界があるとされている。すなわち、集積の多寡や遅延像における集積強度の推移による診断は困難であり、依然として吸引細胞診(FNA)を gold standard とするしかないようである。但し、濾胞癌の多くを占める微小浸潤型は、核異型などでなく、被膜・血管浸潤といった顕微鏡的診断が根拠となることが多い為、細胞診をもってしても診断困難であり、甲状腺濾胞性腫瘍の診断は依然として大きな課題のままである。本症例は、主治医と患者本人との相談・納得の上で手術が施行され、濾胞腺腫の最終診断であった。





「中之島プチ通信」

秋晴れの心地よい天気の下、お出かけをと行きたいところですが、なかなか天候が思わしくありません。未だに暑かったり、雨が降っていたりの繰り返しで思うように予定が立てにくい時期です。昼間であれば暖かい陽気とともに外へ繰り出して、本来ならば満開の紅葉を写真に収めたいところなのですが、紅葉の時期も段々と11月にずれ込むようになり色鮮やかな時期は肌寒い季節と重なるようになって来てしまいました。

今年も中之島界隈の、鮮やかな季節からまっ白い季節まで、移りゆく四季を楽しみに年末を迎えたいと思っています。

まどか



「コラム」

阪神ファンが大多数を占める中之島クリニックは今、変わりゆく秋空を見ながら日本シリーズとアジアシリーズの行く末を思い描く次第です。クライマックスシリーズはもう通過したもの同然で、実戦経験を衰えさせないための良い機会だと思っています。

話を変えましてJリーグですが、上位7チーム勝ち点差6でどこが優勝してもおかしくないリーグ終盤になってきました。JリーグはJ1が18チーム、J2が15チームの計33チーム(プロ野球12チーム)がトッププロチームとして成り立っているのですが、それだけ有力選手が分散しやすい傾向になっていることが、近年の優勝争いの激化の要因となっていると言われています。記憶に新しいところでは鹿島アントラーズの元日本代表「柳沢篤」が京都サンガFCへ、出場機会を求めて移籍をしたこともありました。

そんな中、また再び躍進を遂げているチームが「大分トリニータ」です。オシムという名監督の登場以来、組織で対抗すれば弱小チームでも上位に行けるということを再びファンに教えてくれたシャムスカ監督が率いるチームで、彼の選手掌握術とJ2に落ちかけていた弱小チームを上位に導く手腕は「シャムスカマジック」と言われるに相応しく、ブラジルの代表監督候補にも名を連ねる名将であります。

Jリーグの結果が出るのは年末。勝利の美酒に酔いしれるのは今度はこのチームでしょうか？

なかやま

「編集後記」

あれだけ激しかったゲリラ豪雨もなりを潜めて、すっかり秋めいた風が心地よい季節になりました。そろそろビールだけでは心ともなく、おでんに熱燗で英気を養うことも必要になってくる時期です。

次号は、中之島クリニックとしても2回目の新年、中之島通信としても創刊2年目を迎える新年に発行予定です。

これからもよろしくお願いします。

なかやま (C) s-hoshino.com

